

⑥地域社会における差別事件

埼玉県羽生総合病院リハビリ施設内で二〇〇八年七月、行田市に住む通所中の女性が、同じく通所中している同和地区の女性の前で指を四本出し、「(あの人は)これだ」と発言した事件の糾弾会が、二〇〇九年七月一六日、行田市地域交流センターで開かれた。羽生市の人権推進課長からは、人権啓発活動が不十分だったと深く受け止め、羽生総合病院の職員をはじめ市内一〇カ所の施設でケアマネージャー対象に研修会を開いたことが報告され、行田市市長からは、市の重点課題として人権教育啓発に全力で取り組みたいと決意表明が行われた。

さらに滋賀県では、東近江市在住の男性が二〇〇七年八月一六日、別の市の同和地区住民を騙って、愛知郡愛荘町役場に「〇〇は同和地区か？」と問い合わせる電話をかけてきた事件に対し、東近江市が解決に向けて取り組む姿勢を明らかにした。事件発覚後、「本人に差別する意図がないから、差別事件ではない」として協議を拒んできた東近江市で、二〇〇九年二月に西沢久夫・新市長が誕生し、市長自ら「同和地区問い合わせは差別である」と明言し、「この差別事件の解決に向けて積極的に取り組む」と決意を表明した。